

平成26年度地域科学部・研究科自己点検評価書

項目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
<p>基準4 学生の受入</p> <p>4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。</p> <p>4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	<p><u>入学者選抜の改善に繋がった取組</u></p> <p>○学部・大学院ともに、アドミッション・ポリシーは適切に定められている。学部においては、アドミッション・ポリシーに沿って、小論文入試を重視し、アドミッション・ポリシーに沿った内容が出題されている。研究科においては、アドミッション・ポリシーに従い、多様な分野の入学試験問題を出題している。また、2014年度入試委員会において、高校別の志願者数、後期日程の併願校、入学辞退者の併願校、8年分のセンター試験の得点の比較を調査した。</p> <p>○学部の入学者は入学定員の1.08倍であり、適切な数である。研究科の入学者数は入学定員の0.9倍であり、定員割れとなっているが、ほぼ適切な数である。</p>	<p>学部・研究科募集要項（アドミッション・ポリシー抜粋）（資料1）</p> <p>研究科入試出題科目（資料2）</p> <p>入試分析データ（資料3）</p>	<p>地域科学部・研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）</p>
<p>基準5 教育内容及び方法</p> <p>5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程）</p> <p>5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）</p>	<p><u>単位の実質化を図るための取組</u></p> <p>○1年時前期から卒業論文作成まで常に助言教員、指導教員が決まっており、きめの細かい指導がなされている。基礎セミナー、専門セミナーなどは選択時に志望理由書を書き、専門を決めないまま大学に進学した学生も多い中、学生が自分の専門を考える絶好の機会となっている。</p> <p>学生が社会の様々な活動を体験する「社会活動演習」や学部で学んだ内容を現実の社会で調査確認する「地域学実習」も全員必修で実施している。</p> <p>○地域科学研究科では、社会人、留学生が半数を占め、多様な院生が多様な研究を実施しているが、1学年の定員20名に対し、教員約40名で、大学院生一人ずつに指導教員が研究指導計画書を作成するなど、個人別のきめの細かい指導を行っている。</p>	<p>基礎セミナー・専門セミナー（資料4）</p> <p>FOREST2014（社会活動演習・地域学実習）（資料5）</p> <p>研究指導計画書（資料6）</p>	

項目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料
<p>基準6 学習成果</p> <p>6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。</p> <p>6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。</p>	<p><u>学習成果の向上に繋がった取組</u></p> <p>○セミナーを中心とした学生の能動的学びを重視する教育の成果は、大学生基礎力調査や基盤的能力調査などでも示され、入学時、専門を決めて学生も多い本学部において、次第に専門への興味、関心を高めるとともに、論理的思考力、課題発見力などが向上している。この学習成果は、全国的にもきわめて優れていることが外部実施の大学生基礎力調査でも示されている。</p> <p>○授業評価、卒業時・終了時のアンケートでもセミナーや研究指導は高い評価を受けているし、講義科目もおおむね高い評価を受けている。</p> <p>また、数年おきに卒業生の就職先企業を全教員が分担して訪問し、卒業生の学習成果を確認している。なお、高校訪問と合わせてこの全教員参加型の企業訪問に関しては全国的にも注目され、教育情報誌においても紹介された（※2014年度は、企業訪問は実施していない）。</p>	<p>基盤的能力平成25年度調査（資料7）</p> <p>2013_大学生基礎力調査3カ年報告書（資料8）</p> <p>H26 前期・後期授業評価アンケート集計（資料9）</p> <p>H26 卒業生アンケート集計結果（資料10）</p> <p>H26 修了生アンケート集計結果（資料11）</p> <p>（冊子）：教育情報誌（資料12）</p>
<p>基準8 教育の内部質保証システム</p> <p>8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。</p> <p>8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。</p>	<p><u>教育の質の改善に繋がる取組</u></p> <p>○教育研究個人報告書（「教育」部分をリフレクションペーパーとして使用）を全教員が作成し、全教員で授業の改善に努めている。その一環として、授業評価の高かった講義を教員に公開した。</p> <p>全国的にも極めて優れた教育成果をあげていることが外部実施の大学生基礎力調査で示され、その成果を学外シンポジウムで報告し、本学部の教育内容を全国的にも問い、他大学教員などからコメントをもらった。</p> <p>○本学部の教育に関するFDを3回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生基礎力調査の結果をもとに開催したFDでは本学部の能動的学びの意義を確認した。 ・精神的に困難を抱える学生への対応について経験のある教員からの報告を受けた（資料は個人情報のため割愛）。 ・保健管理センターの職員による自殺予防に関するFDでは、1年生から4年生まですべての学生の助言教員、指導教員が決まっている本学部のシステムのもとで、改めて成因的な困難を抱えている学生への対応と自殺予防に努めることとした。 	<p>シンポジウム（学生が成長する教学改革）（資料13）</p> <p>（冊子）：教育情報誌（資料12）</p> <p>H26 リフレクションペーパー（資料14）</p> <p>アセスメントからみる学生の実態と成長FD（資料15）</p> <p>保健管理センター自殺予防FD（表紙）（資料16）</p>

地域科学部・地域科学研究科の学生受入れ、教育の取り組み

学生の勉学意欲の向上、論理的思考力、課題発見力の向上などが大学生基礎力調査や基盤的能力調査で明らかになっている。

